

日本教育方法学会

第53回大会プログラム

前日 10月6日(金)	17:30	全 国 理 事 会 (三井ガーデンホテル千葉)
	19:00	

第 一 日 10月7日(土)	8 : 30	受 付 開 始								
	9 : 15	課題研究Ⅰ エビデンスに基づく教育と 教育実践研究の課題				課題研究Ⅱ 戦後教育実践と教育方法学(3) ―子どもの貧困―を中心にして―				
	11 : 15									
	11 : 20									
	12 : 10	総 会								
	13 : 00	休 憩								
		自由研究 1	自由研究 2	自由研究 3	自由研究 4	自由研究 5	自由研究 6	自由研究 7	自由研究 8	自由研究 9
	15 : 40									
	15 : 50									
		公 開 シ ン ポ ジ ウ ム 学習指導要領にどう向き合うか ―その批判的検討―								
	18 : 20									
	18 : 30									
	20 : 00	会 員 懇 親 会								

第 二 日 10月8日(日)	8 : 30	受 付 開 始								
	9 : 00	自由研究 10	自由研究 11	自由研究 12	自由研究 13	自由研究 14	自由研究 15	自由研究 16	自由研究 17	自由研究 18
	12 : 10									
	13 : 15	休 憩								
		課題研究Ⅲ 幼児教育におけるナラティブ・ラーニングの検討				課題研究Ⅳ 教師教育における「スタンダード化」を問う				
	15 : 15									
	15 : 30									
		ラウンドテーブル ①			ワークショップ ①			ワークショップ ②		
	17 : 00									

2017年10月7日(土)・10月8日(日)
於 千葉大学

大会参加要領

1. 会場案内：会場は、千葉大学(西千葉キャンパス)です。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。

2. 受付：両日ともに8：30からとなります。

受付は総合校舎入口で行います。

- ・大会参加費（『大会発表要旨』代を含む）は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
- ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
- ・本年度までの学会費（一般会員8,000円、学生会員6,000円）を未納の方は、あわせてお納めください。
- ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法46』をお渡しします。
- ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。会費は4,000円となっております。詳しくは、14頁の「インフォメーション」をごらんください。
- ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。

3. 昼食：土曜日・日曜日ともに受付にて弁当の販売を行います。

4. 研究発表：発表会場につきましては、4～5頁の「会場配置図」をご覧ください。

- ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。

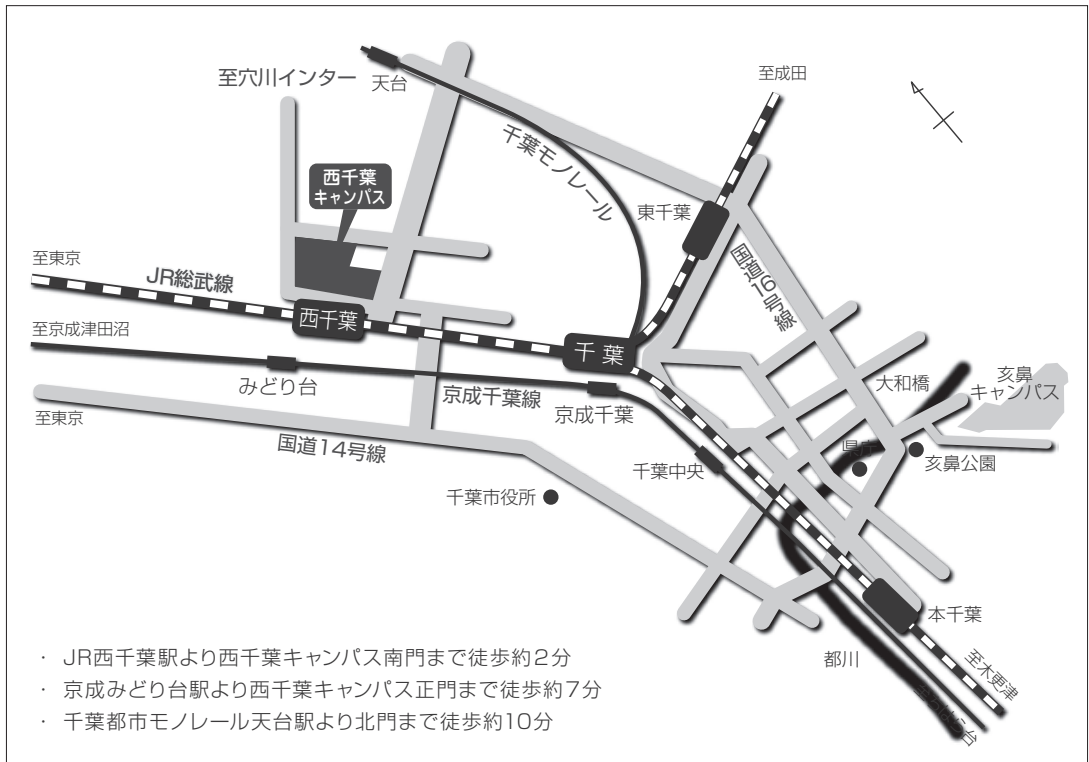
個人研究：発表20分 質疑10分

共同研究：発表30分 質疑10分

（但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。）

- ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は口頭発表者を表しています。

〈千葉大学案内図〉



〈交通手段のご案内〉

●JR をご利用の方

東京駅	総武線 (快速)	約35分 → 8駅(640円)	稲毛駅	総武線 (各駅停車)	約3分 → 1駅(140円)	西千葉駅	南門まで 徒歩 2分
-----	-------------	-----------------------	-----	---------------	----------------------	------	------------------

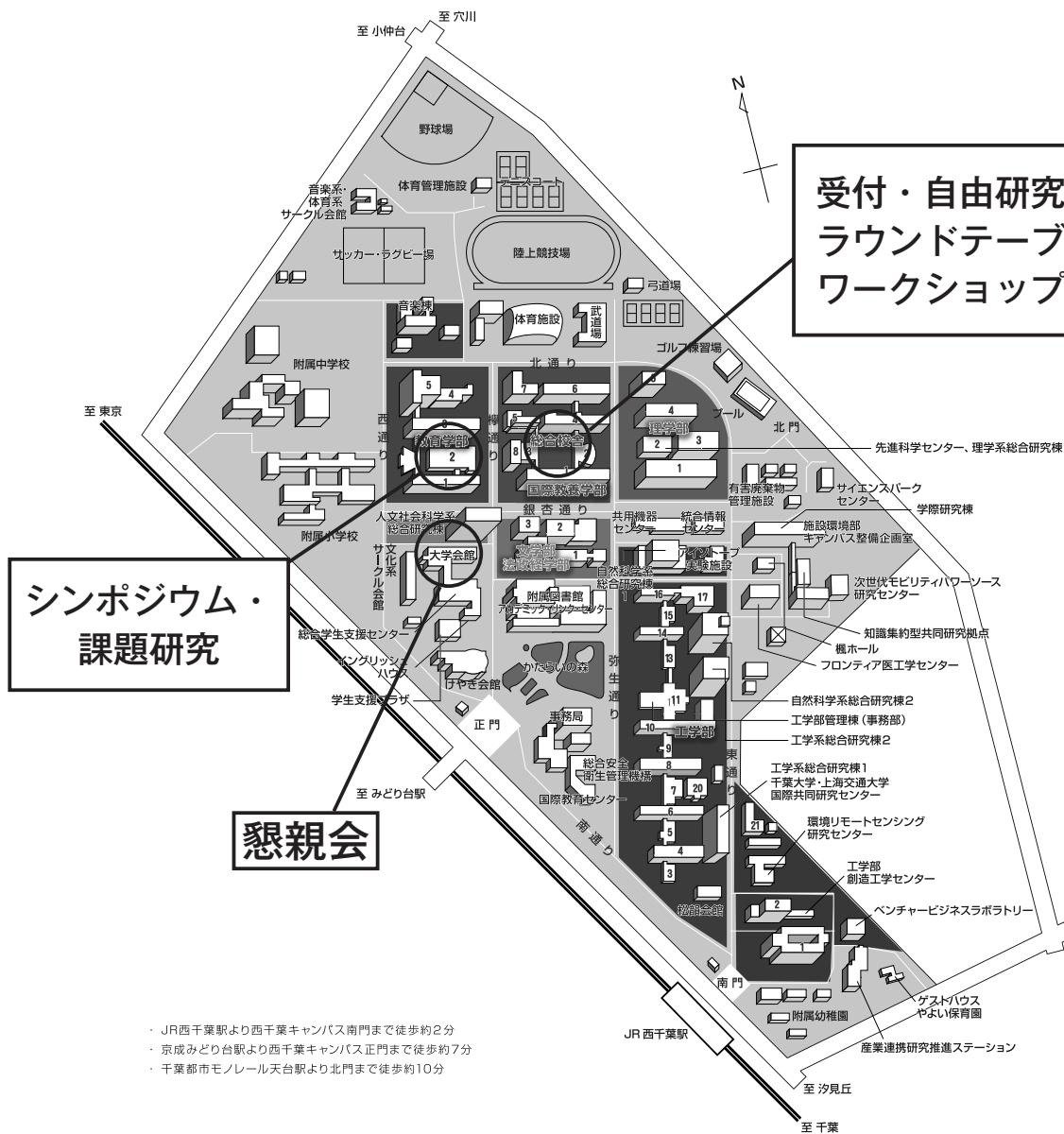
●京成線をご利用の方

京成 上野駅	京成線 特急	約35分 → 6駅(440円)	京成 津田沼駅	京成 千葉線	約11分 → 5駅(190円)	京成 みどり台	正門まで 徒歩 7分
-----------	-----------	-----------------------	------------	-----------	-----------------------	------------	------------------

●羽田空港をご利用の方

羽田空港	京浜急行線 エアポート快速	約16分 → 1駅(410円)	JR 品川駅	総武線 (快速)	約45分 → 10駅(720円)	▶		
▶				稲毛駅	総武線 (各駅停車)	約3分 → 1駅(140円)	西千葉駅	南門まで 徒歩 2分
羽田空港	東京モノレール 空港快速	約17分 → 1駅(490円)	JR 浜松町駅	山手線	約6分 → 3駅(160円)	JR 東京駅	総武線 (快速)	約35分 → 8駅(640円)
▶				稲毛駅	総武線 (各駅停車)	約3分 → 1駅(140円)	西千葉駅	南門まで 徒歩 2分

〈会場配置図〉



会場配置

受 付：総合校舎入口

会：教育学部2112

公開シンポジウム：教育学部2101

課題研究Ⅰ：教育学部2112

課題研究Ⅱ : 教育学部2207

課題研究Ⅲ : 教育学部2112

課題研究Ⅳ：教育学部2207

自由研究 1・10：総合校舎 G5-11

自由研究 2・11：総合校舎 G5-21

自由研究 3・12：総合校舎 G5-22

自由研究 4・13：総合校舎 G4-21

自由研究 5・14：総合校舎 G4-22

自由研究 6・15：総合校舎 G4-23

自由研究 7・16：総合校舎 G5-31

自由研究 8・17：総合校舎 G4-31

自由研究 9・18：総合校舎 G4-32

ラウンドテーブル①：総合校舎 G4-21

ワークショップ①：総合校舎 G4-22

ワークショップ②：総合校舎 G4-23

總督府 官報 第 81 號

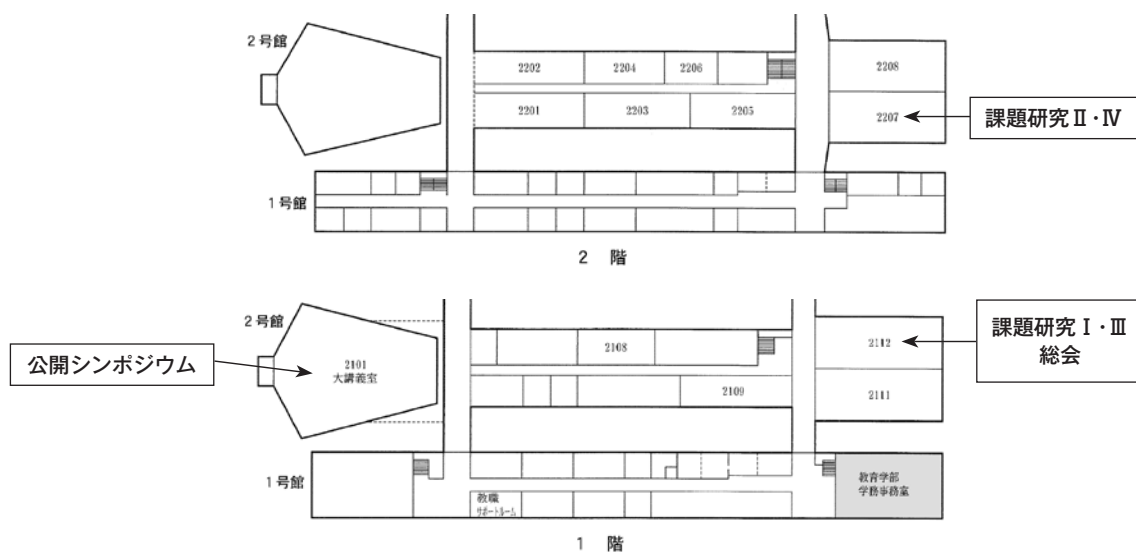
會員控室：綜合校舍 G4-24

クローク：総合校舎入口受付横

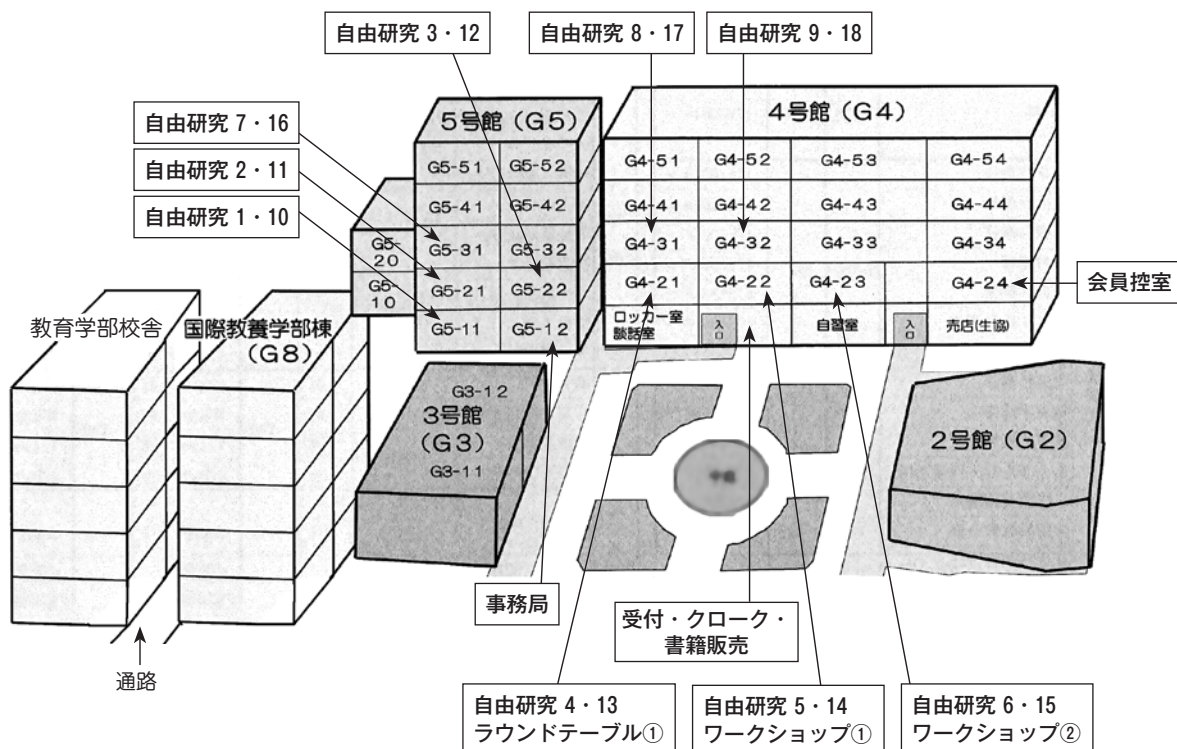
事務局：総合校舎 G5-12

* 会員懇親会の会場は、食堂です。

〈教育学部配置図〉



〈総合校舎配置図〉



10月7日(土) 9:15~11:15

課題研究 I

エビデンスに基づく教育と教育実践研究の課題

(教育学部2112教室)

コーディネーター・司会者

石井英真(京都大学)

藤江康彦(東京大学)

提案者

田上哲(九州大学) 授業と授業研究の方向性の問題

一事例研究としての授業研究からみるエビデンス

益川弘如(聖心女子大学) 学習科学の立場から考えるエビデンスに基づく教育のすがた

湯浅恭正(中部大学) 特別ニーズ教育の実践研究とエビデンス論

〈設定趣旨〉

近年、教育の政策や実践の決定において、エビデンスに基づくことが重視されている。その結果、教育や人間に関わる研究は、実証科学への志向性を強め、教育実践においても、効果が科学的・実証的に確かめられた教育方法を用いることが重視されるようになってきている。こうしたエビデンスに基づく教育は、教育実践に何をもたらすのか。また、教育実践研究は、量的・実証的エビデンスを重視する傾向とどのように向き合い、どのような知を創出していけばよいのか。本課題研究では、エビデンスに基づく教育の可能性と危険性の両面を明らかにしながら、教育実践研究のあり方について考える。

課題研究Ⅱ

戦後教育実践と教育方法学（3）

—「子どもの貧困」を中心にして—

（教育学部2207教室）

コーディネーター・司会者

井ノ口 淳 三（追手門学院大学名誉教授）

折出 健 二（人間環境大学）

提案者

奥 平 康 照（和光大学名誉教授） 子どもの貧困と生活綴方実践

照 本 祥 敬（中 京 大 学） 「子どもの貧困」問題と生活指導研究

—全国生活指導研究協議会の実践と理論に焦点を
当てて—

福 田 敦 志（大阪教育大学） 「学力格差」を乗り越える

—どこに向かって？どのように？—

〈設定趣旨〉

戦後70年を機会に「戦後教育実践と教育方法学」を主題として3年間継続して取り組む課題研究を企画した。まず2015年度は「平和教育」について考察した。昨年度は人権教育を大枠に考えることとし、特に「いじめ」問題について具体的に検討した。そして3年目の今年度は「福祉」の系の中で「子どもの貧困」を中心にして戦後の教育実践を振り返り、到達点と今後の課題を明らかにすることにした。

報告の柱は、①生活指導研究が2000年前後からの格差・貧困の拡大という状況にどう向き合ってきたかについて、主に全国生活指導研究協議会の実践と理論に焦点を当てて考察すること、②戦後の生活綴方の実践の中で典型的な事例を取り上げ、教育実践の内側から「子どもの貧困」とどう向き合ってきたかを指摘するとともに、今日における実践の展望を提起すること、③「子どもの貧困」がいわゆる「学力格差」や学習意欲の内実とどのような関係にあるかについて主な論点を整理し、教育方法の実践と研究において今何が問われているかを考察すること、などである。

「子どもの貧困」については、経済的貧困とともに文化や関係性の貧困も視野に入れて総合的にとらえることが課題となっているが、子どもたちの「貧困」の実相・実態と教師たちはどう向き合い、それぞれの人間の発達と知的主体の形成にどう働きかけてきたか。そこには今日の問題を読み解く大事な鍵もある。本課題研究では、戦後の教育実践の中で「子どもの貧困」を克服しようとした多くの事例を貫く問題について考察する。

10月7日(土) 13:00~15:40

自由研究1

(総合校舎 G5-11)

司会者：河原尚武(元近畿大学)
豊田ひさき(朝日大学)

- 13:00 ① 大伴茂の教育科学研究における教育診断の方法とその役割
―「見定め」と「意義づけ」に着目して―
村井輝久(筑波大学大学院)
- 13:30 ② IFEL「ガイダンス」から生活指導実践への展開
― IFEL の講義内容から生活指導実践への変化を中心に―
久米祐子(九州大学大学院)
- 14:00 ③ 野村芳兵衛の教育観における「生命信順」の位置
北島信子(桜花学園大学)
- 14:30 ④ 授業研究を“核”とする学校づくり
―斎藤喜博と泡瀬小学校(沖縄)―
狩野浩二(十文字学園女子大学)
- 15:00 ⑤ 東井義雄のつまずきを生かす授業
―斎藤喜博のゆさぶりととの比較を通して―
齋藤義雄(東京家政学院大学)

自由研究2

(総合校舎 G5-21)

司会者：池野範男(日本体育大学)
的場正美(東海学園大学)

- 13:00 ① 教科横断的・汎用的な学力形成に関する考察
―文芸研・認識方法、新潟大学教育学部附属新潟小学校・考え方のすべの実践を通して―
村尾聡(龍谷大学大学院)
- 13:30 ② W. v. フンボルトの一般陶冶論の教授学的再構成
―教科の固有性と相互関連性に着目して―
宮本勇一(広島大学大学院)
- 14:00 ③ アクティブラーニングと教科内容(知識)の重視は如何に両立可能か
大道一弘(常磐大学)
- 14:30 ④ 実践の省察を通じた教師の学習・発達に関する一考察(2)
―拮抗する価値のはざまで問い続ける教師の省察のありように着目して―
吉永紀子(同志社女子大学)
- 15:00 ⑤ 教科する(do subject)とは何か
―K. C. パートン & L. S. レヴスティク『Doing History』と踏まえて―
○渡部竜也(東京学芸大学), ○星瑞希(東京学芸大学大学院)
○鉦悠介(広島大学大学院), ○山村向志(筑波大学大学院)

10月7日(土) 13:00~15:40

自由研究3

(総合校舎 G5-22)

司会者：浅井幸子(東京大学)
田端健人(宮城教育大学)

- 13:00 ① 定時制高校の授業における「学び直し」の検討
伊藤晃一(千葉大学大学院)
- 13:30 ② 哲学対話における学びを如何に捉えるか
ー質的研究や授業分析の手法を取り入れた研究方法の提案ー
得居千照(筑波大学大学院)
- 14:00 ③ 教室談話において見出される「差異」が創出する「学級文化」
ーAgarの「リッチ・ポイント」の視点からー
中島義和(お茶の水女子大学附属中学校)
- 14:30 ④ 対話的な学びにおける個々の生徒の理解過程の解明
ー高等学校数学科における課題解決場面に着目してー
○柴田好章(名古屋大学), ○田中真帆(名古屋大学大学院)
○花里真吾(愛知県立千種高等学校), 中島淑子(愛知文教大学)

自由研究4

(総合校舎 G4-21)

司会者：市川博(横浜国立大学名誉教授)
三石初雄(帝京大学)

- 13:00 ① 「教室談話の時空間」に関する研究の展望
ー談話研究に時空間概念を導入することの有用性に着目してー
蔡大志(東京大学大学院)
- 13:30 ② 授業における教師の即時的意識決定における他者認知
徳岡慶一(京都教育大学)
- 14:00 ③ 教師の経験が「みとり」に及ぼす影響に関する調査
山田雅彦(東京学芸大学)
- 14:30 ④ 公教育施設における集団拒否現象への教育学的対処は可能か
ー集団の遊びに参加できない子どもの事例を通してー
○小川博久(東京学芸大学名誉教授)
○岩田遵子(東京都市大学)

10月7日(土) 13:00~15:40

自由研究5

(総合校舎 G4-22)

司会者：小柳和喜雄(奈良教育大学)
西岡加名恵(京都大学)

- 13:00 ① Community Engaged Learning によるカリキュラム開発
ー文部科学省教育課程研究における進路多様高等学校の変容ー
望月未希(東京都立多摩高等学校)
- 13:30 ② 経験されたカリキュラムへのナラティブ・アプローチの可能性
ー平和教育における教育意図と学習経験の乖離を視点としてー
萩原達也(東京大学大学院)
- 14:00 ③ メタ認知力を育むPBL型総合学習のカリキュラムデザイン
ー規準生成型ルーブリックによる学習としての評価活動を中心としてー
広石英記(東京電機大学)
- 14:30 ④ 教員育成指標に基づくカリキュラム・マネジメントの提案
ー学級力向上プロジェクトを事例としてー
○渡津光司(犬山市立南部中学校), 伊藤大輔(金沢工業大学)
倉本哲男(愛知教育大学), 磯部征尊(愛知教育大学)
- 15:00 ⑤ 環境・防災カリキュラム論の視座の検討
ー自然存在, 共同体, 歴史的・社会的存在としての“人間の本質規定”の立場からー
若菜博(札幌国際大学)

自由研究6

(総合校舎 G4-23)

司会者：鶴田清司(都留文科大学)
福田敦志(大阪教育大学)

- 13:00 ① 英文読解における文化的文脈理解の効果と役割01
藤崎さなえ(東北大学大学院)
- 13:30 ② メディア論の観点を加えて文学教材を扱う授業
ー鲁迅「故郷」を題材にー
遠藤茜(千葉大学大学院)
- 14:00 ③ 生活綴方運動の中の国語国字問題
ー「方言詩論争」後の議論を中心にー
永田和寛(京都大学大学院・
日本学術振興会特別研究員)
- 14:30 ④ 雑誌「きりん」に見る対話的学習
ー竹中郁の児童詩教育観をもとにー
今宮信吾(プール学院大学)
- 15:00 ⑤ 日本の子どもたちが外国語としての英語の世界をきりひらくことに資する文法指導とは
大竹政美(北海道大学)

10月7日(土) 13:00~15:40

自由研究7

(総合校舎 G5-31)

司会者：樋口直宏(筑波大学)
松下佳代(京都大学)

- 13:00 ① 「相加平均」操作に焦点を当てた内包量の学習支援方略の研究
斎藤裕(新潟県立大学)
- 13:30 ② 「正統的周辺参加」論を考慮した総合的な学習の時間の授業づくり
ージーン・レイヴ/エティエンヌ・ウェンガー著『状況に埋め込まれた学習』を手がかりにー
境野仁(埼玉県深谷市立明戸小学校)
- 14:00 ③ 算数教育における量の学習の変遷
中島淑子(愛知文教大学)
- 14:30 ④ 国定教科書(第2期版)の使用時期における学校数学としての分数論の存在形態
ー定義の導入に関する実践的研究を主要な対象としてー
岡野勉(新潟大学)
- 15:00 ⑤ 授業開発における専門家の役割
ー教師と弁護士による授業づくりからー
前田輪音(北海道教育大学)

自由研究8

(総合校舎 G4-31)

司会者：新井英靖(茨城大学)
船越勝(和歌山大学)

- 13:00 ① ヘアの道德教育論
白杵龍児(日本大学大学院)
- 13:30 ② 性教育において「快樂追求」を取り上げることの意義と課題の検討
ーニュージーランドの研究者 Louisa Allen との研究交流を通じてー
佐藤年明(三重大学)
- 14:00 ③ 生物多様性が注目される時代の教材に関する考察
ー道德の内容項目「生命の尊さ」「自然愛護」を事例としてー
長島康雄(関東学園大学)
- 14:30 ④ General Report on the Japanese system of military Education and training 1906の分析
ーイギリスは近代日本教育をどうみていたかー
深谷圭助(中部大学)
- 15:00 ⑤ ステレオタイプを克服する道德教材のあり方
ー動画教材「ボクたちの出来事」を例にー
藤川大祐(千葉大学)

10月7日(土) 13:00～15:40

自由研究9

(総合校舎 G4-32)

司会者：白石陽一(熊本大学)
姫野完治(北海道教育大学)

- 13:00 ① パウロ・フレイレの「文化行動」としての学習に関する一考察
佐藤雄一郎(広島大学大学院)
- 13:30 ② 後期中等教育における学習者の批判的思考力の評価指標に関する研究
－国際バカロレア「知の理論」を中心に－
井上志音(灘高等学校)
- 14:00 ③ 批判的リテラシーを形成する教育実践の展開と課題
黒谷和志(北海道教育大学)
- 14:30 ④ 地域高校における困難を抱える生徒への発達支援の試み
－全員が卒業できるまで－

○池田考司(北海道野幌高等学校)
○高橋亜希子(南山大学)

10月7日(土) 15:50~18:20

公開シンポジウム

学習指導要領にどう向き合うか — その批判的検討 —

(教育学部2101教室)

コーディネーター

大田 邦 郎 (千葉 大学)
子 安 潤 (中部 大学)

司会者

遠 藤 貴 広 (福井 大学)
子 安 潤 (中部 大学)

提案者

梅 原 利 夫 (和 光 大学) 縛りの体制から解き放たれ創造的実践研究の道へ
— 向き合うべきは子どもの学び —
大田 邦 郎 (千葉 大学) 踊りまわる活動主義と暗記主義の合体
— 教科教育の視点からみた新学習指導要領 —
本 田 由 紀 (東京 大学) 「資質・能力」が意味するもの
— 過去のエデュケーション言説との対比から —

〈設定趣旨〉

昨年末の中教審答申を受けて3月に新学習指導要領が告示されました。教科の新設があり、科目構成にも変化があったほか、従来の目標と内容を中心とした記述から「資質・能力」を含んだ記述に大きく変わりました。さらに学び方に関する記述も増大しました。学校ではそれらの先取りの取り組みも始まっています。

そこで、今回の学習指導要領の特質を国や産業界の動向の中に位置づけて求められている能力・人間像を読み解くとともに、教科教育学的な視野からの検討を交差させ、教育方法学研究と教育実践の課題を探りたいと考えます。

インフォメーション

●会員総会

日 時 : 第一日(10月7日(土)) 11:20~12:10
会 場 : 教育学部2112教室
主な議題 : 会務報告
2016年度決算
2018年度予算案
次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●会員懇親会

日 時 : 第一日(10月7日(土)) 18:30~20:00
会 場 : 食堂
会 費 : 4,000円

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまのご参加をお願いいたします。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』、『大会発表要旨』の最新刊およびバックナンバーを、大会割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

なお、『教育方法』最新刊(第46巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。

10月8日(日) 9:00~12:10

自由研究10

(総合校舎 G5-11)

司会者：大野 栄三 (北海道大学)
久野 弘幸 (名古屋大学)

- 9:00 ① 20世紀前半の米国社会科教育における情意面の評価方法
齊藤 仁一朗 (東海大学)
- 9:30 ② 中間項の応用による授業分析
ー授業過程の累積分析ー
中道 豊彦 (愛知県立半田高等学校)
- 10:00 ③ 「深い学び」を実現する知識構築型ルーブリック
ー授業構想力の強化と形成的評価による授業改善ー
○水野 正朗 (東海学園大学), 副島 孝 (愛知文教大学)
- 10:30 ④ 自己評価による資質・能力の育成
ーOPPA論を中心としてー
中島 雅子 (埼玉大学)
- 11:00 ⑤ Instructional Rounds における授業分析法の特徴
○廣瀬 真琴 (鹿児島大学), 森久佳 (大阪市立大学)
木原 俊行 (大阪教育大学), 深見 俊崇 (島根大学)
宮橋 小百合 (和歌山大学)

自由研究11

(総合校舎 G5-21)

司会者：藤川 大祐 (千葉大学)
本田 敏明 (茨城大学)

- 9:00 ① 教育大学における「情報化」への対応策
山口 好和 (北海道教育大学)
- 9:30 ② 教師視点の映像記録を活用した授業実践能力育成支援の試みⅡ
○平山 勉 (名城大学), 後藤 明史 (名古屋大学)
谷口 正明 (名城大学), 竹内 英人 (名城大学)
- 10:00 ③ ヴァルネラビリティからレジリエンスへ「学びの映像論的転回」Ⅱ
ー映像メディア表現による新たなナラティブの創出と PTG ー
柳 沼宏寿 (新潟大学)
- 10:30 ④ 思考ツールを用いた情報の可視化によるヴァルネラビリティへの意識づけ
安谷 元伸 (四條畷学園短期大学)
- 11:00 ⑤ 写真評価法 (PEMQ) を用いた園内研修がもたらす環境構成に対する保育者の意識
○中坪 史典 (広島大学), 秋田 喜代美 (東京大学)
小田 豊 (聖徳大学), 芦田 宏 (兵庫県立大学)
門田 理世 (西南学院大学), 鈴木 正敏 (兵庫教育大学)
上田 敏丈 (名古屋市立大学), 野口 隆子 (東京家政大学)
箕輪 潤子 (武蔵野大学)

10月8日(日) 9:00~12:10

自由研究12

(総合校舎 G5-22)

司会者：狩野浩二(十文字学園大学)
山田綾(四天王寺大学)

- 9:00 ① 子どもの認知特性に着目した授業づくりと校内研修の開発的研究
ー複数の教師によるPASS評定尺度の利用を中心にー
松尾奈美(広島大学大学院・
日本学術振興会特別研究員)
- 9:30 ② 質的な授業評価を通した教師のPDCAに関する考察
ー初任者教師の場合ー
坂井清隆(福岡教育大学)
- 10:00 ③ 小中、中高の一貫や連携の研究
ー算数・数学の授業を、マナイタにのせてー
井上正允(元佐賀大学)
- 10:30 ④ 学習困難児の授業参加を促す教師の指導技術に関する一考察
○小里直通(茨城大学大学院), 新井英靖(茨城大学)
- 11:00 ⑤ 授業における教師の「待つ」行為に関する一検討
○細川和仁(秋田大学), 姫野完治(北海道教育大学)
- 11:30 ⑥ 学校と地域による小中一貫教育像の協働的生成
ー開校に向けた語りの分析ー
藤江康彦(東京大学)

自由研究13

(総合校舎 G4-21)

司会者：片山宗二(安田女子大学)
藤原幸男(沖縄キリスト教短期大学)

- 9:00 ① 教師の信念の形成契機
ー昭和20年に教壇に立った女性教師の語りー
滝川弘人(東京大学大学院)
- 9:30 ② 高校における文系探究学習の指導
ー特に導入段階についてー
和田篤史(立命館大学)
- 10:00 ③ 子どもの科学的概念の習得に関する教師の語りの機能
ー中学社会科授業における物語的な教師の発話に着目してー
稲永亮(芝中学高等学校)
- 10:30 ④ 授業研究法：＜分かちあい＞方式が、教職志望学生の授業指導力育成になぜ効果があるのか、15年の実践研究からの検証
ーその理論、協働性、自律開発性、即検証改善・発展課題など、学生指導実践からー
小島勇(東京電機大学)
- 11:00 ⑤ 模擬授業を活用した学習者視点での授業の省察のトレーニング
ー教職大学院における対話型模擬授業検討会の取り組みを中心にー
渡辺貴裕(東京学芸大学)

10月8日(日) 9:00~12:10

自由研究14

(総合校舎 G4-22)

司会者：木原俊行(大阪教育大学)
田代裕一(西南学院大学)

- 9:00 ① 保育者による子ども理解の「実践」
ー子どもとの相互行為の会話分析ー
池田竜介(九州大学大学院)
- 9:30 ② 幼児期から小学校への接続
ー領域「言葉」と国語について、素話に着目してー
神戸洋子(池坊短期大学)
- 10:00 ③ 子どもの言語獲得と主体形成に関する一考察
ー1年生の授業事例を手がかりにー
廣中真由美(広島大学大学院)
- 10:30 ④ デューイ実験学校幼稚園における遊びの位置づけ
浅野幸乃(鴨谷学園鳳幼稚園)
- 11:00 ⑤ 実験を軸とする仮説生成模擬授業の方法原理
ーデューイの探究理論を視座としてー
小島律子(大阪教育大学名誉教授)

自由研究15

(総合校舎 G4-23)

司会者：赤星まゆみ(西九州大学)
高橋英児(山梨大学)

- 9:00 ① 生活指導論における「ケア」に関する一考察
ー竹内常一に焦点をあててー
星川佳加(神戸大学大学院)
- 9:30 ② 陶冶(Bildung)と規律(Disziplin)の関係に関する問題史的検討
早川知宏(広島大学大学院)
- 10:00 ③ いじめの持つ暴力性の考察
福田八重(帝京科学大学)
- 10:30 ④ いじめを解決し修復する学校とは
ー修復的正義のコミュニティ論を手がかりにー
田渕久美子(活水女子大学)
- 11:00 ⑤ ドイツの幼児教育カリキュラムにおけるコンピテンシーの位置
渡邊真依子(愛知県立大学)
- 11:30 ⑥ ベルリンの全日制基礎学校に関する一考察(3)
ー„Handlungsrahmen Schulqualität in Berlin“の検討を中心にー
百々康治(至学館大学)

10月8日(日) 9:00~12:10

自由研究16

(総合校舎 G5-31)

司会者：澤田稔(上智大学)
田代高章(岩手大学)

- 9:00 ① クリエイティブ・レッスンをめぐる冒険
青木幸子(昭和女子大学)
- 9:30 ② 高齢者インプロ実践のアクション・リサーチ
園部友里恵(三重大大学)
- 10:00 ③ 在日外国人教育における教師の経験と教員研修会
ーX市小学校外国人教育研究会をめぐってー
磯田三津子(埼玉大学)
- 10:30 ④ 寒川セツルメントの活動と学び
山崎早苗(有明教育芸術短期大学)
- 11:00 ⑤ 子どもと女性教師のエンパワメントを促す学校改革
ーオーセンティシティの回復に着目してー
○浅井幸子(東京大学), ○黒田友紀(日本大学)
○望月一枝(日本女子大学客員研究員), ○柴田万里子(青山学院大学非常勤講師)
金田裕子(宮城教育大学), 北田佳子(埼玉大学)
申智媛(帝京大学短期大学)

自由研究17

(総合校舎 G4-31)

司会者：安彦忠彦(神奈川大学)
中野和光(美作大学)

- 9:00 ① 音楽科教師の熟達プロセスの検討
ー同一教材を用いた授業実践の比較を通してー
○市川恵(早稲田大学)
- 9:30 ② 中学校数学教師における教育観・授業観の形成背景
ー個人的生活史と現在の状況に注目してー
大越健斗(東京大学大学院)
- 10:00 ③ 論理的思考力を育む、深い読解の指導について
ー言葉の意味を使い、子ども同士が自分の考えを持って対話追求することで深い読み取りを実現するー
隅内利之(青梅市教育委員会)
- 10:30 ④ 体育科授業における実践的指導力を向上させるための授業研究と授業分析に関する研究
矢島広輝(星槎大学)
- 11:00 ⑤ 問題解決学習における発言の切実性と多元性に関する研究
ー小学校6年社会科歴史学習の分析ー
○埜嶋志保(名古屋大学), 付洪雪(名古屋大学大学院)
柴田好章(名古屋大学)

10月8日(日) 9:00~12:10

自由研究18

(総合校舎 G4-32)

司会者：小 泉 祥 一 (白 鷗 大 学)
柴 田 好 章 (名 古 屋 大 学)

- 9:00 ① 小規模校の授業研究・若手教員育成の課題と展望
石 川 英 志 (岐 阜 大 学)
- 9:30 ② K. Gravemeijer と P. Cobb の「デザイン研究」に関する一考察
伊 藤 伸 也 (金 沢 大 学)
- 10:00 ③ 知的特別支援学校の教室談話分析
ー生徒主導の談話シーケンス形成を目指した教師の足場かけに着目してー
楠 見 友 輔 (東 京 大 学 大 学 院)
- 10:30 ④ e-ポートフォリオを活用した授業研究に関する研究
ー中長期的な子供の学習記録を生かす校内研修の方法ー
小 柳 和喜雄 (奈 良 教 育 大 学)
- 11:00 ⑤ カリキュラム・マネジメントによるコンピテンス育成の長期的検証
ー社会科・道徳・総合的な学習を中心にー
○豊 畠 啓 司 (福 岡 教 育 大 学)
○柴 田 康 弘 (福岡教育大学附属小倉中学校)
○三 浦 研 一 (福岡市立三宅小学校)

10月8日(日) 13:15~15:15

課題研究Ⅲ

幼児教育におけるナラティブ・ラーニングの検討

(教育学部2112教室)

コーディネーター

庄井良信(北海道教育大学)

西岡けいこ(香川大学)

司会者

小川博久(東京学芸大学名誉教授)

田淵久美子(活水女子大学)

提案者

岩田遵子(東京都市大学) ナラティブ概念の多義性を問う

ー我が国への教育現実への適応可能性

庄井良信(北海道教育大学) 語り合う身体から演劇的な意味創造へ

ー保幼小の失われた環(missing-link)としての
ナラティブ・ラーニングー

西岡けいこ(香川大学) Sろう学校幼稚部の実践にそくして考える

〈設定趣旨〉

今日、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定を契機に、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の在り方が、理論的・実践的に問われている。そこでは、小学校以降の育ちを展望しながら、「幼児教育において育みたい資質・能力」が仔細に整序され、小学校各教科における学びとの接続の在り方を模索する試みが進められている。その一方で、幼児の環境への主体的なかかわり(遊び)とそこにおける身体論的な意味生成の体験(ナラティブ)への気づき合いから、遊びと学びとの接続を問いなおす実践と理論も蓄積されている。その1つがナラティブ・ラーニングの試みである。この課題研究では、内外の幼児教育の実践に参与(観察)している3人の研究者から、幼児のナラティブな表現活動を重視する試みに関する報告を受け、参加者と共に、その教育方法学的な意義と課題について検討したい。

10月8日(日) 13:15～15:15

課 題 研 究 IV

教師教育における「スタンダード化」を問う

(教育学部2207教室)

コーディネーター・司会者

阿 部 昇 (秋 田 大 学)

山 崎 準 二 (学 習 院 大 学)

提案者

佐久間 亜 紀 (慶 應 義 塾 大 学) 教職大学院発足当初の議論を振り返って

松 木 健 一 (福 井 大 学) 教員養成に携わる大学教員の資質・能力と教育課程を考える

山 崎 雄 介 (群 馬 大 学) 「スタンダード化」の是非を問う前に

—教職大学院の「現状」は正しく理解されているか—

〈設定趣旨〉

この数年で教職大学院が全国の多くの大学に広がった。教職大学院では、それまでの教育学研究科に比べ座学中心の授業が少なくなり、実践的な授業が増えている。しかし、教職大学院の教員の約半数が教育委員会推薦の小中高の現場出身の実務家教員である。そのため、教職大学院が教育委員会の出先機関的性格をもちつつある。一方で、大学本来の役割である研究的要素が、教職大学院において後退する傾向にある。また、学部の教員養成においても、退職校長や教育委員会出身の教員が相対的に重い役割を担うようになっている。それらの事情から日本の教師教育は「スタンダード化」つまり規格化、画一化の方向に進みつつあると言ってもいい状態である。

本課題研究では、その現状を丁寧に分析・検討しつつ、今後教職大学院、学部の教員養成をどのように変えていったらよいのか、その糸口を探り出したい。

ラウンドテーブル①

学生同士が授業指導力を高め合う
「＜分かちあい＞授業研究」の実際
—2017学生授業研修実行委員による授業研究力のとりくみと育成支援から—
(総合校舎 G4-21)

企画者

小 島 勇 (東京電機大学)

提案者

木 暮 孝 太 (東京電機大学理工学部生)

大 田 明 慶 (東京電機大学理工学部生)

徳 武 隼 人 (東京電機大学理工学部生)

渡 邊 祥 平 (東京電機大学理工学部生) 以上2017授業研修実行委員学生

(アドバイザー) 立 川 琢 也 (東京電機大学大学院2年・実行委員 OB)

企画者・小島の自由研究発表「授業研究法：＜分かちあい＞方式が、教職志望学生の授業指導力育成になぜ効果があるのか、15年の実践研究からの検証」を受けた、学生たちの手によるラウンドテーブルである。

本ラウンドテーブルに取り組む学生たちは、3年後期＜授業のアマチュアからスタート＞し、半年間の教育実習事前科目「教育の方法と技術」で＜教育実習校で通用する授業指導力を身につける課題＞に取り組む。本授業では教育実習体験を持つ4年生有志による＜授業づくり、授業指導上のアドバイス支援（事前授業練習、指導案作成）＞を受けながら、3・4生協働の＜分かちあい＞授業研究にとりくむ。

学生同士の学びで、3年は、授業レベル（授業づくり・模擬授業・研究協議）の高い4年から学び、「自発的な授業づくり（事前授業練習含）の重要性」、「授業研究の重層的構造や課題（＜学習相互関係＞＜授業指導構造と課題の多岐性＞＜授業準備や教材の有効性や課題＞の発見」、「授業研究協議による学び（気づき・反省）」を体験から理解していくことを重視する。4年生は、実習後、改めて協働による授業研究の重要性と実践力向上の自覚、また3年に対する支援やアドバイスの意義を学ぶことが課題である。

学生の自律的授業研究を、「授業研修大会」で31回継続させてきたのが学生授業研修実行委員である。実行委員は、上級生の活動や先輩達（卒業現職含）の授業レベルから学び、刺激され自主的に活動参加である。

本ラウンドテーブルでは、2017実行委員学生が、学生の授業研究「①授業運営（司会・連絡等）、②模擬授業提案（事前授業練習・指導案作成含）、③研究協議（授業検討司会・研究授業テーマ明示等含）、④まとめ連絡（司会・研究授業者日程）」などの概要、また「学生授業研修大会」や現職教員、国際授業研究交流等も関連で取り上げ、授業研究からの成長、課題、気づき等を報告し、参加者と＜分かちあい＞で学ぶ。

10月8日(日) 15:30~17:00

ワークショップ①

授業デザインに位置づく仮説生成模擬授業の体験(2)

(総合校舎 G4-22)

企画者

衛 藤 晶 子 (畿 央 大 学)

提案者

藤 本 佳 子 (大阪教育大学附属平野小学校)

高 橋 澄 代 (京 都 教 育 大 学)

鉄 口 真理子 (大 阪 成 蹊 大 学)

横 山 真 理 (東海学院大学短期大学部)

近年、大学授業において教員としての資質・能力の育成を目指し模擬授業を取り入れた実践的な授業形態の重要性が高まっている。

私たちは10年前から「仮説生成模擬授業」という新しい考え方に立つ模擬授業を開発してきた。今回はその2回目のワークショップである。前回は教科を越えたさまざまな立場の参加者から、旧来の模擬授業と仮説生成模擬授業の違いについて意見を交わすことができた。それをふまえ、今回は仮説生成模擬授業の独自性をより意識したワークショップを実施したいと考える。

前回に述べたように、「仮説生成模擬授業」とは、授業者の学習指導案を仮説とし、さまざまな立場の人が受け手となって参加し、授業を受けながらよりよい案を出し合い、出た案を即座に取り入れてやってみることで、仮説である学習指導案自体をつくりかえていく営みをいう。ここで案を実際にやってみることは、教育実践的な実験ということになる。やってみて、どちらがよいかを判断するのではなく、やってみることでまた新たな案(仮説)が生成されるところによさがある。「仮説生成模擬授業」の場は、現実の教室ではないが、つねに理論と実践を往還させる実験室の役目を果たす。

従来の模擬授業では、学習指導案を固定的なものとして捉え、それを授業という実践に移すための指導技術を得ることが目的とされる。一方、「仮説生成模擬授業」では、学習指導案を一つの仮説としてとらえ、その仮説自体を実験という実践を通してつくりかえていくことが目的となる。そして、授業構成の表現といえる学習指導案を、教育実践的な「実験」によりつくりかえていくという点で、授業デザインの一環に位置づく。

当日は、授業者を一人立て学習指導案を仮説として提案する。さまざまな立場の人が授業の受け手となって参加し、実際に仮説生成模擬授業を体験する。その後、各自の体験を通して教育方法としての「仮説生成模擬授業」について意見交換をし、その意義と課題について考察を深める。

10月8日(日) 15:30～17:00

ワークショップ②

授業逐語記録にもとづく比較授業分析
— マレーシア算数授業における教材観を中心に —

(総合校舎G4-23)

企画者

柴田好章(名古屋大学)

提案者

サルカールアラニ・モハメッドレザ(名古屋大学)

久野弘幸(名古屋大学)

坂本将暢(名古屋大学)

タンシャーリー(名古屋大学)

本ワークショップでは、過去6年間の国際比較授業分析のワークショップの成果をもとにし、提案者らが協同して研究を進めている比較授業分析を行う。今回は、マレーシアの小学校の算数授業の逐語記録と映像にもとづいて、比較授業分析を行い、異なる国の授業の共通性や差異を明らかにする。これを通して、文化を越えて互いに有益な知見を見いだすことをめざしている。

ワークショップでは、まず、提案者側から、分析対象授業の紹介を行う。そして、参加者も、授業逐語記録を読みながら、比較授業分析を行い、意見交換をする。今回の授業分析では、算数授業(分数)における教材観に着目する。

比較授業分析によって、国を超えて、授業あるいは学習という事象における共通する知見や課題が明らかになると予想される。また、両国の教育の制度や文化背景を考慮しつつ比較文化論的に考察することによって、授業の有する文化的固有性や共通性についても明らかになると予想される。さらに、提案者らによる教師の洞察力や教材観に関する研究成果の一部も提案する。参加者も交えてディスカッションを行い、授業という複雑な事象に対する研究アプローチのあり方を考えたい。

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1 9 8 3	(2,472円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1 9 8 5	(2,940円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1 9 8 7	(2,520円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1 9 8 8	(3,045円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1 9 8 9	(2,039円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1 9 9 0	(1,794円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1 9 9 1	(1,794円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1 9 9 3	(1,896円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1 9 9 4	(1,896円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1 9 9 6	(1,998円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1 9 9 7	(1,890円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1 9 9 8	(2,058円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革		
	—新学習指導要領の教育方法学的検討—	1 9 9 9	(1,953円)
			(価格は税込)

〒114-0023

東京都北区滝野川7-46-1

明治図書

TEL.(編)03-5907-6620

TEL.(営)048-256-2337

『教育方法』は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。
この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。
『教育方法29』より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2 0 0 0	(1,890円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2 0 0 1	(1,890円)
教育方法31.	子ども参加の学校と授業改革	2 0 0 2	(1,995円)
教育方法32.	新しい学びと知の創造	2 0 0 3	(1,995円)
教育方法33.	確かな学力と指導法の探求	2 0 0 4	(1,995円)
教育方法34.	現代的教育課程改革と授業論の探求	2 0 0 5	(1,995円)
教育方法35.	学習意欲を高める授業—どのような学力を形成するか—	2 0 0 6	(2,100円)
教育方法36.	リテラシーと授業改善		
	—PISAを契機とした現代リテラシー教育の探究—	2 0 0 7	(2,100円)
教育方法37.	現代カリキュラム研究と教育方法学		
	—新学習指導要領・PISA型学力を問う—	2 0 0 8	(2,100円)
教育方法38.	言語の力を育てる教育方法	2 0 0 9	(2,100円)
教育方法39.	子どもの生活現実にとりくむ教育方法	2 0 1 0	(2,100円)
教育方法40.	デジタルメディア時代の教育方法	2 0 1 1	(2,100円)
教育方法41.	東日本大震災からの復興と教育方法：防災教育と原発問題	2 0 1 2	(2,100円)
教育方法42.	教師の専門的力と教育実践の課題	2 0 1 3	(2,100円)
教育方法43.	授業研究と校内研修—教師の成長と学校づくりのために—	2 0 1 4	(2,100円)
教育方法44.	教育のグローバル化と道徳の「特別の教科」化	2 0 1 5	(2,100円)
教育方法45.	アクティブ・ラーニングの教育方法学的検討	2 0 1 6	(2,100円)
			(価格は税込)

最新刊・教育方法46. 学習指導要領の改訂に関する教育方法学的検討

〈内 容〉

- I 学習指導要領のあり方を問い直す
- II 教育のスタンダード化と教育方法学の課題
- III 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚1-4-5

図書文化

TEL. 03-3943-2516